

# 熊本高専八代 全国ロボコン大賞

自作ロボットの性能やアイデアを競う「アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト全国大会」で、熊本高専八代キャンパス（八代市平山新町）のロボコン部のチームが、4年ぶり2回目となる最高賞のロボコン大賞を獲得した。今年で31年目を迎えた大会は、従来の無線操縦の手动ロボットに加え、制御プログラムで動かす自動ロボットを初めて競技で使うことになり、例年以上に注目される中での快挙だった。

## 高い技術で圧倒的得点力

競技の課題は毎年変わり、今年を製作した機械知能システム工学科1～5年生8人のチームが進出した。大会ルールではロボの高さをそれぞれ1層以下とし、手动ロボの移動範囲を制限。そこで八代チームはスタート後に2機を合体させ、手动ロボを自動ロボの上に乗せて移動制限を無効化。高さも約2層にアップさせる戦略で臨んだ。

自動ロボが2段テーブルの位置を認識して止まり、手动ロボがペットボトル10本を上段に射出。1回戦ではすべて立てることに成功し、下段に立てた10本と合わせて大会最多得点の60点を獲得した。順調に勝ち進み、全てのテーブルに1本以上立てるルールに変更された準決勝では、ロボ2機を別々に動かす戦略で臨んだが、試合開始までの10分間で調整が十分で

きず敗れた。しかし、圧倒的な得点力と高い技術力が評価され、大賞を手にした。

チームリーダーの5年湯野友貴さん(19)は「優勝を逃したのは悔しいが、多くの人に評価され、自分たちの技術に自信を持てた」と胸を張った。顧問の山下徹准教授(43)は「この2年間は成績不振だったが、腐らずに技術を高め、新しい技術にも取り組む努力を続けたことが実った」と目を細めた。

(宮上良二)

ロボコン大賞を獲得したチームのメンバーとロボットの「バリスタ」

